

<p><b>外国語教育</b></p>	<p>すべての子どもたちに外国語を学ぶ喜びと、平和な未来をひらく力を！</p> <p>このテーマにもとづき、「何を」教えるのかを明らかにし、「知りたい」「わかりたい」という子どもたちの願いにこたえる豊かな授業の創造をめざして、次のようなことを話しあい、交流します。</p>	<p>長谷川 和久 (吹田・片山中) 鎌田 栄一 (府高・狭山高)</p>	<p>①新学習指導要領や教科書の批判・検討。よりよい教科書、教材とは？</p> <p>②なぜ、何のために外国語を教え、学ぶのか。</p> <p>③外国語学習を通して、異文化を理解し豊かな心をどう育てるのか。</p> <p>④自己表現活動で楽しい授業をどうつくるのか。</p> <p>⑤映画や歌などを活用した授業とは。</p> <p>⑥外国語で平和教育をどうすすめるのか。</p> <p>⑦生徒とつくる「楽しくわかる」授業とは。</p> <p>⑧小学校英語、「英語特区」などについて話し合う。</p>	<p><b>社会科教育</b></p>	<p>科学と事実に基づき、地域の主人公としての子どもを育てる社会科教育をすすめます。この視点から社会科の学力とは何かを明らかにし、地域の実態と子どもの成長をふまえた実践を研究・討議します。</p>	<p>平井 美津子 (吹田・西山田中) 岡本 茂 (茨木・天王小)</p>	<p>①平和と民主主義、人権を基調にした憲法学習のあり方を探ります。</p> <p>②子どもたちがくらししている地域のようす・歴史の掘り起こしをもとにした実践を交流します。</p> <p>③子どもたちの知的な関心を育て、わかる授業や教材のあり方を交流します。社会科教科書、「総合的な学習の時間」などの課題を明らかにします。</p> <p>④公立高校入試問題の批判と分析をすすめます。</p> <p>⑤学習指導要領の問題点を明らかにし、科学的な認識を育てる社会科授業とは何かについて交流します。</p>	<p><b>算数・数 学 教 育</b></p>	<p>「わかる」ことと「できる」ことは、本来、切り離すことができません。「わかる」が「できる」を支え、「できる」が「わかる」を支えているのです。</p> <p>しかし、現実には基礎学力を重視するあまり、「できる」ばかりが重視され、「わかる」が軽視されています。「習熟度別授業」が押しつけられる中で、実践の自由が制限され、「わかる授業」「できる授業」を創ることが難しくなっています。</p> <p>しかし、大阪にはまだまだたくさんの優れた授業実践があります。様々な困難の中で、学ぶことの楽しさを実感できる授業をどのようにして創り出すのか？ 新指導要領の内容を見据えながら、実践交流しましょう。</p>	<p>何森 真人 (岸和田・八木南小) 阪口 宗義 (府障教・堺聴覚支援)</p>	<p>①すべての子どもたちにゆたかな自然認識をもたせよう。</p> <p>②自然と人間生活とのかかわりを考える力をつけさせるための授業実践を持ちよう。</p> <p>③「幼・小・中・高・障害児」での理科教育の中に自然科学の概念を位置づけよう。</p> <p>④自然科学の社会的役割を明らかにしよう。</p> <p>⑤真理を尊重し、平和を創造する課題において、理科教育の役割を明らかにしよう。</p>	<p><b>理 科 教 育</b></p>	<p>理科の授業をどう組み立てたらよいか、学び合う場が欲しいという要望にこたえる分科会をめざします。実験なども交えながら、授業づくりについても考えていきます。</p>	<p>永井 茂治 (府高教・勝山高) 西木 茂 (吹田・南千里中)</p>	<p>改訂学習指導要領、検定教科書を検討し、自然にかかわる子どもの認識と発達の中から、私たちの教育課程を考えていきます。</p>	<p><b>美 術 教 育</b></p>	<p>美術教育は、人格形成にとって大切な基礎・基本の教科です。教師も子どもも楽しく力のつく授業づくりについて学び合しましょう。</p>	<p>石村 純子 (門真・沖小) 松下 順一 (交野・長宝寺小)</p>	<p>①子どもの実態や発達との関わりを明らかにして、生活実感に根ざした表現を通して豊かな感性を育み、表現意欲と表現力を高める指導のあり方を追求しましょう。</p> <p>②手仕事の役割を発達保障の観点から明らかにしましょう。</p> <p>③美術作品との対話の大切さを明らかにして鑑賞のあり方を検討しましょう。</p> <p>④学習指導要領・教科書の表現の軽視、ただ楽しむだけの造形活動の問題点を明らかにし、子どもたちの成長・発達を支える美術教育の自主編成をしていきましょう。</p> <p>今、改めて美術教育の大切さと役割を明らかにしつつ、実践に結びつけていきましょう。</p>	<p><b>音 楽 教 育</b></p>	<p>子どもを取りまく文化は質量ともに低下し、音楽の授業も軽視されている状況にある。しかし、子ども達は本来、音楽や美術をはじめとした豊かな文化を体に取りこんで成長していくのである。私達は音楽の働きかけによって子どもが集中し、明るく育つ事実を検証し、働きかけの核となる授業や教材をますます吟味し精選していかねばならない。</p> <p>反面、子ども達の不安や荒れはまず音楽の授業であらわれるという実態もある。音楽の授業が成立せず悩んでいる教師も少なくない。</p> <p>この分科会では、個々の音楽の授業の様子を出しあい、授業に役立つ教材曲や伴奏の研究を実技をまじえて交流したい。歌ったり語りあったりする中で、音楽の果たす豊かな役割を明らかにしていきましょう。</p>	<p>上拾石 陽子 (南河内・高辺台小) 碓 恵美 (堺・福泉南中)</p>	<p><b>技 術 ・ 職 業 教 育</b></p>	<p>今の時代こそ「ものづくり」の重要性が社会的に注視されていますが、今回の改訂を見てもみても分かるように「技術教育」「職業教育」は学習指導要領改訂ごとに時間数も減り、教える中身がますます曖昧にされてきています。普通に生徒たちが興味を持つには、学習させるにはどうすべきか？誰もが基本的な正しい道具・工具の使い方が出来るようにしたい。当然、教員も十分に使い方を理解しておく必要があります。</p> <p>工科高校になった1期生が卒業しました。工業高校時代と比べて、出口の結果はどうだったのか？「系」「専科」のあり方はどうなのか。これらも検証します。また、困っていることや授業の悩みを持ち寄りましょう。</p> <p>今年から昼休みには家庭科の先生の指導のもとに、安全な食材を使った「パエリア」を作ります。スイーツも用意します。</p> <p>研究課題は以下の通りです。</p>	<p>赤木 俊雄 (大東・諸福中) 前野 博 (府高教・和泉工)</p>	<p>①小・中・高校における「技術・職業教育」の位置づけをもっと分かりやすくしましょう。</p> <p>②地域や大学との連携を強めます。</p> <p>③ものづくりの内容の検討をします。また、選択教科の内容の検討もします。</p> <p>④中学校の改訂学習指導要領の問題点について。「生物育成」をどう考えるか。</p> <p>⑤短時間で取り組める教材・教具の検討をする。</p> <p>⑥改編等でどのように変わったのか。府立工科高校や大阪市立工業高校の教育課程を検討する。</p>	<p><b>家 庭 科 教 育</b></p>	<p>①父母・家庭との連携を深めながら、科学的認識や基本的な技能を育てる教育内容を考える。</p> <p>②食の安全の意識・行動の変化、企業と食の安全の矛盾を考える。</p> <p>③健康な体・生活づくりのための教材、すべての高校で、男女共学家庭科教育をさらに推進していく。</p>	<p>興儀 千尋 (府高教・布施高)</p>		<p><b>体 育 ・ 健 康 ・ 食 教 育</b></p>	<p>新自由主義的格差社会が子どもの育ちや教育に大きな影を落とし、「生きづらさ」を抱えて不登校になったり「荒れ」たり、コミュニケーション能力に大きな課題を抱えてにっちもさっちもいなくなったりしている子どもの状況が、全国のどこでも見られるようになってきています。その子どもたちに共通するのが、「からだと心の複合的なゆがみ」です。改訂学習指導要領の中でも子どもたちの心と体の状況への不安が語られ、健康・食・安全・体力等への重点が語られています。しかし、そこで求められているのは「自己管理能力」に過ぎません。</p> <p>そうした改訂学習指導要領の問題点を明らかにしつつ、子どもの「からだと心の複合的なゆがみ」に実践的にどう向き合っていけばよいかを明らかにしましょう。体育・健康・食それぞれの視点から「複合的ゆがみ」をほぐしていく視点を出し合い、父母・地域との協同の中で子どもの自己肯定感を育てていく手立てを明らかにしていきましょう。</p>	<p>安武 一雄 (吹田・青山台中) 斎藤 早百合 (箕面・第一中) 遠藤 裕子 (吹田・第一小)</p>	<p><b>生 活 指 導 ・ 自 主 的 活 動 と 民 主 的 人 格 形 成</b></p>	<p>子どもをめぐる実態をリアルにとらえることが求められています。「学びからの逃避」「無気力」「荒れ」「非行」「いじめ」「暴力」など、現場での困難な状況が次々に報告されています。今日の社会状況が子どもたちに大きな影を落とし、「安心と希望の根拠地」となるべき家庭や学校、地域が根底から揺らいでいます。そのなかでも、懸命に努力する子どもたちの姿や教師の取り組みが、毎年力強く報告されています。</p> <p>この困難な課題を克服するには、子どもと教師の信頼関係を作り出す事が大きな力となります。学級や学年で子どもたちの「自治活動」を広げる集団づくりが求められています。子どもの姿を、学校・地域・家庭でトータルにとらえ、父母と教職員が共同して「未来を切り拓く」取り組みを進めましょう。職場での実践を持ち寄り、語り合ひましょう。語り合えば元気になり、さらに学び合えば希望がわいてきます。</p>	<p>八幡 庄子 (堺・御池台小) 小松 正明 (大東・諸福中)</p>
---------------------	--	---	---	---------------------	--	---	--	--------------------------------------	---	---	---	-----------------------------------	---	---	--	-----------------------------------	---	--	--	-----------------------------------	---	--	---	---	--	--	---	---	----------------------------	---	---	---	---	---	---	--

あなたの実践を大教組教研へ